

MIYAGI's Forestry

みやぎの林業だより

234号

令和6年12月25日発行



＜みやぎの林業だよりバックナンバーはこちら＞

「国民参加の森林づくりシンポジウム」の様子

—— 伐採の届け出・森林の新規所有の届け出は、市町村へ ——

す。豊かな森林を守るためには木を「伐って、使って、植える」サイクルを作ることがとても大切です。てフォーカスします。

令和6年度
森林づくり・木づかい
表彰式 開催

県では森林づくりや木材利用に対する県民等の参加及び理解の促進を図るため、林業・木材産業の振興に関して特に功績があった方に感謝状の贈呈を行う「森林づくり・木づかい表彰」を実施しています。今年度は5者が受賞しました。

● ANAホールディングス株式会社



活動終了後の集合写真

南三陸町入谷地区の森林10ヘクタールにおいて、継続した森林整備活動を行ったこと、間伐材を地元工場で商品化し地域の活性化・雇用創出に貢献しました。

県産材を建材、内装材にふんだんに使ったオフィスビルを仙台市中心部に建築し、また建築中・竣工時に見学会を行うことで都市部での木材利用を推進し、化粧CLTの普及に貢献しました。



ひときわ目を引く外観で通行人の目に留まる建物

● 有限会社青山ビル

● 公益財団法人オイスカ



名取市海岸林の再生状況

「名取市海岸林再生の会」と協力してボランティアを募って海岸防災林の植栽・保育を行い、地域貢献や海岸防災林の再生と普及啓発に貢献しました。

「公益財団法人オイスカ」と協力し、約43万本に上るクロマツの苗木生産から植栽・保育までを行い、地域貢献や海岸防災林の再生と普及啓発に貢献しました。



受賞者の皆様

感謝状は宮城県産材を使用した額とともに、小林副知事より各団体の代表者に手渡されました。受賞された皆様、おめでとうございます。



建立した石碑と会員

● 名取市海岸林再生の会

関保育所について

「関保育所」を建設した七ヶ宿町も木づかい表彰を受賞！

七ヶ宿町は町の面積の九十パーセント以上が森林となっており、木材資源が豊かな町です。近年、町の施策による若者の移住定住者が増えていることから、子育て環境の充実を図るため、その豊富な森林資源を活用し、令和五年度に町立関保育所の建替えが実施されました。

建替えに当たっては「七ヶ宿町の建設物における木材利用の促進に関する方針」に基づいて、町と建築業者が「七ヶ宿町建築物木材利用推進協定」を締結し、地域材の積極的な利用を推進しました。建替えられた関保育所は構造材だけでなく内装材にも可能な限り木材を使用しています。天井面にも木部をあらわすなど園児や保護者、保育園で働く職員が木の香りや木の安らぎ、木の温もりを感じられる温かみのある空間作りがなされました。また、CLT材が床材や門扉から玄関までの屋根（パーゴラ）に使用されています。建築物全体の木材使用量は二百二十二立方メートルとなり、そのうち地域材である七ヶ宿町産材を含めた県産材の割合は約九十五パーセントとなりました。建替えに当たっては、国の林業・木材産業循環成長対策事業を活用しており、県としてもその採択や建設に当たった地域

材供給・加工について支援を行いました。

関保育所の建替えは令和六年三月に完成し、同年四月六日に開所式と入所式が行われました。関保育所では木造の建替えにより、木とふれあい、木と生きる「木育」に取り組み、通園する園児が木や森と人との関係を主体的に考えられる豊かな心を育む保育を実践していくこととしました。

(大河原地方振興事務所)



木に囲まれた空間で遊ぶ園児たち



関保育所外観

「みやぎの木製品展 2024」を開催しました！

県では、木の良さや木材利用の意義等を広く県民へPRするとともに、県産材の利用促進を図るため、「みやぎの木づかい運動」として県民運動を展開しています。特に9月から11月までを「県産材利用推進月間」に設定し、関係団体等と連携しながら、森林・林業・木材に関する広報活動やイベントを積極的に開催しています。その一環として、9月30日から10月25日まで、県庁18階の県政広報展示室において、「みやぎの木製品展 2024」を開催しました。昨年度に続いて2回目の開催で、今年度は計10事業者に出展いただきました。玩具や小物のほか、イスやテーブルをはじめとした家具や、木桶や木製扇子など、バラエティに富んだ木製品が集まりました。地元新聞社にも取材いただき、展示期間中の見学者数は約500人となりました。県民の皆様にも木のぬくもりや心地良さ、木製品への親しみを感じていただき、日常生活に取り入れるきっかけになればと願っています。

本県の森林は本格的な利用期を迎えています。木材を利用することは、「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の循環利用を進め、カーボンニュートラルの実現に貢献します。

今後も、県民の皆様にも「みやぎの木」に触れていただく機会をたくさんつくり、県産材の利用促進を図ってまいりますので、御理解と御協力をお願いします。

(林業振興課みやぎ材流通推進班)



木製品展の様子

第48回全国育樹祭の開催日程が決まりました!!

～開催まで1年を切りました!!～



ついに、第48回全国育樹祭の開催日程が決定しました！
開催日程は以下のとおりです。

●令和7年10月4日(土曜日)

お手入れ行事 国立花山青少年自然の家南蔵王野営場(白石市)

●令和7年10月5日(日曜日)

式典行事 セキスイハイムスーパーアリーナ(利府町)

日程が決まったことにより、いよいよ私たちは開催に向けて全力で走り抜けます！県全体における全国育樹祭に対する思いをより一層強くさせるため、皆様からのたくさんの応援お待ちしております！ぜひ一緒に第48回全国育樹祭を成功させましょう！

第49回宮城県みどりの少年団大会が開催されました！

令和6年9月28日に国立花山青少年自然の家南蔵王野営場において、第49回宮城県みどりの少年団大会が開催されました。

当日は、県内のみどりの少年団19団約140人をはじめ、県大河原産業高等学校環境科学科の生徒13人も参加するなど、若い力が集結した活気ある大会となりました。

少年団の皆さんには第48回全国育樹祭で使用する予定のプランターカバーの制作や、全国育樹祭の会場である南蔵王野営場内の木の枝打ち、除伐活動を行っていただきました。

参加した少年団員の方からは「プランターカバーを作ることは初めてだったけれど上手にできた」や「私たちの手で木の手入れをする大切さを知ることができた」、「未来の人たちのために宮城の木を大事にしていきたい」など、木を守り育てることの大切さを学ぶ素晴らしいきっかけとなったことがうかがえるコメントをいただきました。



▲大和町立吉田小学校のみなさん



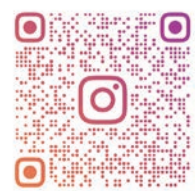
▲仙台市立将監小学校のみなさん



公式Instagramをcheck!!

第48回全国育樹祭公式Instagramアカウント「R7全国育樹祭×海山人みやぎ」のフォローはもうお済みですか？

全国育樹祭の情報はもちろん、宮城の水産、林業に関する情報を随時発信していますので、ぜひフォローしてください!!



UMIYAMAHI.TMIYAGI

▲公式Instagramアカウントはこちら

気仙沼の隠れた名産「まつたけ」

今年も豊作でした

気仙沼管内でまつたけが収穫されているのを御存じでしたか？

まつたけの国内生産量は令和五年特用林産物統計調査によると、約十八・五トンであり、岩手県や長野県、和歌山県などが国内主要産地ですが、実は宮城県でも約一・五トンのまつたけが収穫されており、ほぼ全てが気仙沼市内で収穫されています。また、令和五年は岩手県と長野県に続いて国内第三位のシェアとなっており、知る人ぞ知る隠れた名産品となっています。

しかし、この隠れた名産であるまつたけも、東京電力福島第一原子力発電所事故による放射性物質の影響を受け、令和二年十一月に気仙沼市で採取された野生きのこの一種であるコウタケで、国の基準値である百ベクレルを超過する放射性物質が検出されました。そのため、気仙沼市で採取されたまつたけを含む野生きのこの全てに、同年十二月に出荷制限が指示されました。その後、東北大学の協力の基、気仙沼市と連携して、非破壊検査機の導入を進め、検査体制を



気仙沼産まつたけを活用した料理

整えたことで国の制限解除を受け、現在は、まつたけを出荷することが可能となっています。

出荷するまつたけは、非破壊検査機による全量検査に合格し、安全が確認されたまつたけのみであり、安全安心の証である検査済シールが貼られて出荷されています。

今年度のまつたけシーズンも終わりを迎え、過去最高だった昨年度に次ぐ約一トンのまつたけが収穫されています。

市内の飲食店などでは、まつたけの茶わん蒸しや、すき焼き、春巻きなど様々なまつたけ料理が堪能できますので、来年の秋には、ぜひ、気仙沼の隠れた名産であるまつたけを御賞味下さい。

(気仙沼地方振興事務所)

ハタケシメジ新品種の

栽培技術の確立

当センターが前研究課題として開発したLD3号は栽培の至適環境が広く野性味が強い大ぶりの品種で、今年度から候補一株と予備二株について、二名の生産者の施設で現地栽培試験を行っています。

九月に菌床を野外に伏せ込んでおり、全ての菌床で子実体(きのこ)の収穫に至っております。また、十一月からは簡易施設での発生状況を試験しています。さらに、当センター内でも性能(培養・育成日数、収量、有効茎数、傘直径、柄長さ)確認のための栽培試験を実施しております。現行課題ではこれらの試験と発生状況の記録と温湿度の計測により至適環境等の栽培特性の調査を実施して、一般に供給する一菌株を決めるとともに、現地実装するための栽培マニュアルを作成する計画です。

LD3号原種菌の維持管理は、今後長期に渡って必要となります。また、施設栽培用の品種として形が良く均整が取れ、長年に亘って親しまれているLD2号は、品種登録から十七年が経ち、一部に原種菌の継代による性能の低下がみられています。そこで、ミキサーで菌糸を攪拌・細断して培養した

菌株や、凍結保存した菌株、子実体から組織を採取し培養した菌株の発生試験を行うことで、原種菌の性能維持管理技術の向上に向け、菌株の保存上有効な技術の開発に結び付けたいと考えております。

かつては複数県で人工栽培用新品種を開発し栽培化していましたが、現在でも品種開発及び品種の供給を継続しているのは本県のみで、高い独創性があり、直売所等の地域特産品目として地域振興に貢献していきたいと考えています。

(林業技術総合センター)



生産者での野外栽培状況



ミキサーでの攪拌とハタケシメジの発生状況

労働安全の取組

最も危険な作業である伐倒作業による死亡災害を防ぐため、高性能林業機械の導入による機械化を進めています。

ハーベスタシミュレーター導入 ～ハーベスタオペレーターの養成を加速～

林業では、安定した状態の重量物である「立木」を根元から切り離し、不安定な状態にする伐倒が、最も危険な作業であり、死亡災害の約七割を占めることから、機械化による安全性向上の取組を推進しています。また、県内林業事業者の高性能林業機械保有台数は、令和元年の二百二十七台から令和四年実績で三百四十一台まで増加していますが、オペレーター（操縦者）の養成が喫緊の課題となっています。

そこで、県では、伐倒・造材作業を担うハーベスタオペレーターの養成を目指して、林業技術総合センターにシミュレーターを導入しました。

今回導入した機器は、実機の操作性を忠実に再現するため、搭乗型シミュレーターとし、VRゴーグルを装着することにより、現場の臨場感溢れる研修を体験することができます。また、研修プログラムも立木をアタッチメントで掴む基礎練習から、伐倒、造材まで全十一種類のメニューとアクシデント（事故）体験を組

み合わせた一連の技能体験が可能な構成となっており、操作内容の点数化、自己分析もできるなど、経験者にも更なる技能向上が期待できます。

これまでのオペレーター養成研修では、現場で実機を使用するため、誤操作による破損や、天候によるスケジュール変更など実施が難しい面がありました。今回、シミュレーターを導入したことにより、初心者にも安全・安心な研修を提供できる体制を整えて受講生の皆様をお待ちしています。

県では、今後とも多様なニーズに対応し、各種研修体制の拡充を図りながら林業担い手の育成に取り組んでまいります。

（林業振興課林業基盤整備班）



シミュレーター操作状況

能登半島地震の復旧支援

～地震からまもなく一年 派遣職員からの報告～

私が復旧支援職員として、石川県輪島市にある奥能登農林総合事務所に派遣されて五か月が経過しようとしています。三月末に打診を受けてから自分の中で不安な気持ちを抱えての赴任でしたが、派遣先の事務所の方をはじめ、私と同じく他道県から派遣されている職員の方と協力をしながら能登半島地震により被害を受けた治山林道施設の災害復旧業務に当たっています。

私は主に林道復旧に係る災害査定業務を担当していますが、管轄する四市町の路線では「舗装の亀裂、ひび割れ、路肩決壊、法面崩壊」など、膨大な数の被害を受けています。

五月中旬から始まった県営林道の災害査定を皮切りに、ほぼ毎週災害査定を受けている状況です。被害を受けた多くの路線で、路体が流出したことや法面崩落等により通行が困難であるなど、被害調査に多くの時間を要しました。このため、思うように査定の進捗が上がっていないところですが、本庁や管内市町と協力しながら、一件でも多くこなせるように努めています。八月からは他管内の事務所からも協力をもらいながら災害

査定を進めており、まさに県全体で一丸となり取り組んでいるところです。

派遣予定期間もまもなく折り返しを迎え、今後も引き続き災害査定中心の日々が続きますが、被災地の一日も早い復旧・復興を願うとともに、それに自分が少しでも貢献できたらという気持ちで、一杯励みたいと思います。

東日本大震災の際に受けた、全国各地からの多大なる支援に対し、私なりの恩返しができたらと考えています。

（森林整備課治山班 成田讓）



応援職員の集合写真(右下が筆者)

森林経営計画の推進について

森林経営計画制度は、平成二十三年の森林法改正によって創設され、その前身である森林施業計画(昭和四十二年開始)まで含めると、半世紀以上の歴史を持つ制度です。

この制度では、森林所有者又は森林所有者から経営の委託を受けた者が、主伐・造林・間伐などを実施する場所や時期などを自らの意志で計画し、計画どおりの施業を実施することで国の補助金(森林育成事業など)の交付を受けられることが最大のメリットとなります。

県には、国や県の事業を含めて様々な補助制度があります。補助率が高いのは森林経営計画の策定を要件とした国の事業であり、特に、一貫作業による再造林の場合、森林育成事業を活用することで、ほぼ手出しなく再造林が実施できます。

一方で、県内の民有林面積に対する認定カバー率は三十パーセント程度にとどまっており、何か難しいものと感じる方もおられるかもしれません。要は、所定の様式に、造林などの計画を書き込むだけであり、森林組合等に委託することも可能です。県の地方振興事務所や森林組

合には、林業普及指導員や森林施業プランナーなど、森林所有者にアドバイスや施業提案できる職員が揃っています。森林経営計画という古くて新しい制度に関心をお持ちの方は、是非御相談ください。
(林業振興課地域林業振興班)

市区町村	林小班	森林所有者	施業方法	森林の現況				伐採計画			造林計画				保育計画			保護計画		
				面積(ha)	林種名	樹種	林齢(年)	材積(m ³)	樹高(m)	計画年度	伐採種	比率(%)	面積(ha)	計画年度	造林種	樹種	面積(ha)		植栽本数(ha当たり)	下刈り
●●町	001A005	雪丸 花子		0.03	人工林	スギ	15	11	13.6											
●●町	001A007	雪丸 花子		0.06	人工林	ヒノキ	15	13	10.6											
●●町	001A011	雪丸 花子		0.03	天然林	その他広	45	4		R6	主皆	100	0.03	R6	拡造	カラマツ	0.03	2,000		
●●町	001A012	雪丸 花子		0.89	人工林	スギ	55	344	13.8	R6	主皆	100	0.89	R6	再造	カラマツ	0.89	2,000		
●●町	001A013	雪丸 花子		0.48	人工林	スギ	62	206	14.6											
●●町	001A014	雪丸 花子		1.14	伐採跡地		2							R7	再造	スギ	1.14	1,500		
●●町	001A016	夏山 登	登長伐	0.72	人工林	スギ	4	23	2											
●●町	001A017	夏山 登	登長伐	0.28	人工林	アカマツ	49	53	10.7											
●●町	001A018	夏山 登	登長伐	0.37	人工林	スギ	59	166	15	R7	間伐		30	0.37						
●●町	001A019	夏山 登	登長伐	0.50	人工林	ケヤキ	35	51												
●●町	002400100	夏山 登	登長伐	0.94	人工林	スギ	51	337	13.2	R7	間伐		30	0.94						
●●町	002400101	夏山 登	登長伐	0.20	人工林	その他広	20	5												
●●町	002400300	夏山 登	登長伐	0.76	人工林	スギ	53	284	13.5											

一例です。
策定した計画は、しっかりと守ることが重要です！！

森林経営計画の作成例

鳥獣被害にお困りの方へ

農林業者による被害防止を目的とした鳥獣捕獲

野生鳥獣の被害は、県下全域で恒常的に発生しており、特に二ホンジカ・イノシシは行動圏域及び生息域が拡大し、農林業の被害区域も年々広がっている状況にあります。効果的に被害を減らすためには防除対策だけではなく、個体数を減少させることも必要です。

そこで、農林業者が行う鳥獣捕獲の方法について御紹介します。

野生鳥獣の捕獲は、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律(鳥獣保護管理法)で規制されており、一般的には、狩猟免許の取得や、捕獲許可を受けて行う必要がありますが、農林業者が捕獲を行う場合は、鳥獣保護管理法で例外が定められており、所有地(山林、畑等)の農林業被害を防止する目的で、囲いわなを使用して狩猟鳥獣を捕獲する場合には限られますが、二つの方法で、それぞれの条件を満たすことで、鳥獣の捕獲を行うことができます。

【方法1】

① 狩猟期間内に行う。

② 鳥獣保護区等以外の区域で行う。

この方法の場合には、狩猟免許の取得や捕獲許可を得る必要はありません。

【方法2】

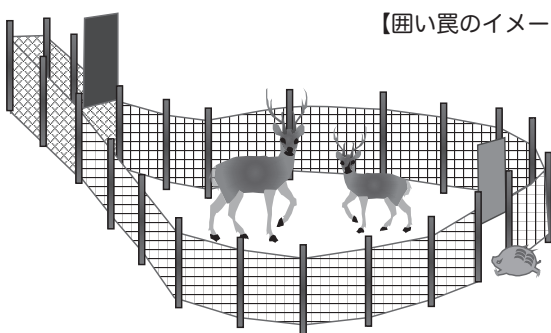
① 有害鳥獣捕獲許可を得る。

この方法の場合には、最寄りの市町村又は県から許可を得る必要がありますが、狩猟期間以外の日でも、鳥獣保護区等の区域内でも鳥獣の捕獲が可能となります。

※鳥獣保護区等の区域は、県自然保護課のホームページから確認ができます。

(登米地域事務所)

【囲いわなのイメージ】



天井部の半分以上が開放されているものを「囲いわな」という。

狩猟期間：【毎年11月15日から翌年2月15日まで】
※イノシシ・二ホンジカについては、市町村によっては【毎年11月1日から翌年3月31日まで】に延長されています。

県営林道『女川北線』の開設に取り組んでいます！

女川町の民有林は、収穫可能な面積が約九割に達していますが十分に活用されず、また、町内の森林は二ホンジカにより林内の下層植生が食害を受け、至る所で表土が露出し、林内環境が悪化している状況にありました。そのため、町からの要望を受けて、①森林整備の推進、②防鹿柵整備の推進、③地域経済活動の活性化(搬出コストの縮減等による利益の還元に期待)、④迂回路や物資運搬路としての活用を目的に、林道の開設に取り組むことになりました。開設に当たっては、地形が急峻で突っ込み線形となっていた複数の既設林道を延伸・接続させる等、専門的な知識を要するため、県営事業での整備となりました。

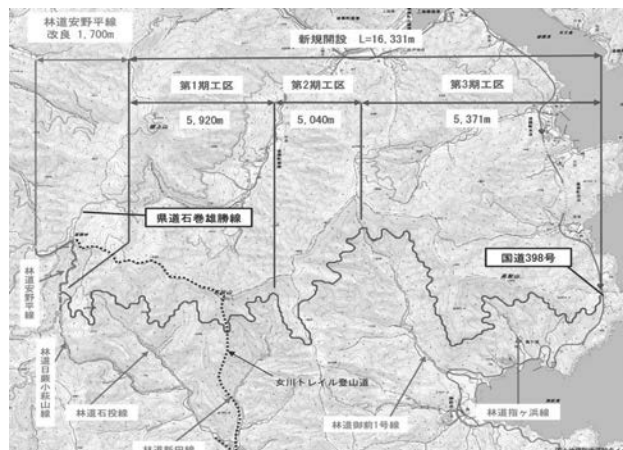
令和4年度から着手し、令和5年度には全体計画が完成しました。起点となる林道「安野平線」から東側沿岸部の国道398号線に至る延長約16kmを3期の計画で令和33年度までの全線開通を目指しています。

現在は第I期計画の詳細設計を終え、既設林道の延伸に係る工事を先行して行っており、本線の

工事が複数工区として効率的に着手することができるように工事を進めています。

本林道の整備が生産性の向上や雇用の拡大など地域経済に対して恩恵をもたらすとともに、レクリエーション施設へのアクセス道として多くの方々に利用され、石巻圏域の根幹となる幹線林道になるよう全力で工事に取り組んでいきます。

(東部地方振興事務所)



全体計画

治山施設の老朽化対策を進めています！

県では、山地災害を防止する目的で昭和30年代から現在まで、治山事業による谷止工や土留工といった鋼製又はコンクリート構造の治山施設を設置してきました。

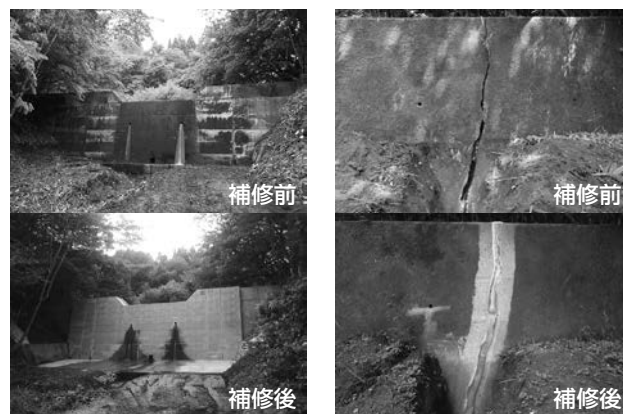
しかし、経年劣化による施設強度の低下や度重なる大雨や大地震等も経験し、施設の一部が損壊するなど、健全度の低下した治山施設が点検により確認されています。

健全度が低下し修繕を要する治山施設は、宮城県全体で120施設あり、約半数の65施設が栗原管内に存在します。健全度が低いまま放置した場合、今後の災害に耐えられないおそれがあるため、令和5年度から修繕工事による老朽化対策を開始しました。修繕を要する施設は、主に割れ・打継目のズレ・劣化による表層の剥離などがあるものです。

写真にある施設は、基本的に施設の重量で背後の土圧を抑えているため、施設の傾倒が確認されない場合は、損壊部分の補修工事となります。修繕方法としては、割れには特殊なモルタルを充て

ん、打継目の剥離にはコンクリートを前面に増厚、表層の劣化は左官作業により特殊なモルタルを塗布するといった修繕工事を施工します。

令和7年度までに健全度の低下した全施設の修繕を目指し、栗原管内の各地で修繕工事を施工しています。治山施設の健全な維持と機能向上を図り、もって山地災害の未然防止に努めてまいりますので、工事への御協力をよろしくお願い致します。(栗原地域事務所)



打継目剥離の補修

割れの補修

後世に引き継ぐ治山事業

今から半世紀以上前に行われた民有林直轄治山事業の資料について、保存へ向けた取組を行ったので御紹介します。

当該事業は、昭和26年から39年にかけて大崎市鳴子温泉鬼首地域で施工された「荒雄川民有林直轄治山事業」です。

荒雄岳を源とする荒雄川流域は、火山地帯特有の脆弱な土壌条件であることから、大雨や洪水の度に山腹崩壊が発生する荒廃地域でした。特に、昭和20年前後にかけて台風や大雨等の自然災害が頻発し、多くの人命が亡くなる等甚大な被害が発生したことから、集中的な復旧事業が必要と判断され、当該事業が実施されることとなりました。

当該事業の実施主体は青森営林局(現林野庁東北森林管理局)ですが、事業完了に伴い施設や関係資料は当県へ移管され、以後の施設管理は当県で行ってきたという経緯があります。

今回、資料の状態を確認したところ、直射日光を避けて保存されていたため、保存状態は比較的良好でした。一方で、青焼き図面(以下「青図」と

いう。)の一部で退色や変色が発生しており、視認性の低下が認められました。青図は近代以降に設計図面として大量生産されましたが、熱や光に弱く劣化損傷しやすいため、永続的な保管には適さないという特徴があります。施設管理を行うに当たり、図面は当時を知ることができる重要な情報資産となります。このことから、本取組では青図257枚を電子データ化しました。

施設は完成から半世紀以上が経過し、老朽化が進行しています。今後、当該データを活用し、将来に渡って適切に施設管理を行ってまいります。(北部地方振興事務所)



電子データ化した青焼き図面

おいしい原木しいたけのPRイベントを開催

10月27日(日)に仙台市太白区の秋保ヴィレッジ、そして11月3日(日・祝)に黒川郡大和町のたいわ産業まつりにおいて、原木しいたけのPRイベントを開催し、さわやかな秋晴れの中、合わせて110人に植菌を体験していただきました。

このイベントは仙台市及び大和町の原木しいたけ生産推進協議会と共催し、安全安心な原木しいたけ生産の取組を広く消費者に伝え、消費拡大を図ることを目的としています。

植菌体験では、生産者から原木しいたけをめぐる話や植菌方法の説明の後、参加者各々が原木しいたけの種駒を木づちで打ち込み、栽培の一端を体験しました。参加者には植菌した原木とともに収穫間近のほど木をプレゼントし、自宅で引き続き原木しいたけの栽培や収穫を体験してもらうこととしています。

秋保ヴィレッジでは試食販売も行い、来場者に原木しいたけの美味しさを伝えることができたほか、今年初めて行った「乾しいたけ詰め放題」もお昼過ぎには終了する人気でした。

たいわ産業まつりでは「なりきり林業キッズ体験」も行い、子供達に大好評でした。

今後も、原木しいたけの消費拡大を図るため、生産者と協力したPRイベント等の開催を支援してまいります。(仙台地方振興事務所)



秋保ヴィレッジで行われた原木しいたけの植菌体験。無心で木づちでしいたけの種駒を打ち込みます。

たいわ産業まつり
上手にできるかな？

一つとなるスギ花粉対策は、昨年国の政策にも盛り込まれます注目浴びている分野です。利用する取組を行っています。

始しており、現在では東日本随一の規模の少花粉スギの採穂園と出荷量を誇っています。



少花粉スギ採穂園

2 少花粉スギ種子の生産

県内産の少花粉登録品種の内遠田2号は、染色体の構成が通常と異なり、種子ができないことから他の4品種を含む10品種で構成する、屋外のミニチュア採穂園0.06haと同11品種で構成する半閉鎖型のミニチュア採穂園を3棟整備しています。屋外のミニチュア採穂園では平成29年度から種子の出荷を始めており、半閉鎖型のミニチュア採穂園では、今年の6月、7月に着花促進を行い、現在、多量の雄花・雌花が着花している状況で、令和7年度の初出荷に向け着々と準備を進めております。なお、採穂園では隣り合う縦横斜めの樹木は異なる系統の樹木を配置する必要がありますため、少なくとも9品種の樹木が必要となります。

少花粉スギは着花促進を行わないと花粉を出す雄花がほとんど着花しないため、ジベレリン(着花促進剤)を散布して雄花・雌花の着花を図ります。ただし、母樹にストレスがかかる上、球果採取後に強度の剪定も行うことから樹勢回復のため、ミニチュア採穂園を区画分けしローテーションで運用します(後述の特定母樹スギでも同様)。また、少花粉スギではその特性から着花促進処理を行っても自然受粉に十分な花粉量が生産され

ない可能性が高いことから、屋外のミニチュア採穂園では袋掛けした雌花に花粉を挿入する人工受粉を、半閉鎖型のミニチュア採穂園では自然受粉等での種子生産を実施及び計画しており、母樹の成長とともに種子生産量を増やしていく計画です。



着花促進処理後の少花粉スギ雄花着花状況(12月) 半閉鎖型ミニチュア採穂園

3 特定母樹スギ種子の生産

令和3年度から県内産を含む20品種で構成するミニチュア採穂園0.15haと大苗木を植栽したミニチュア採穂園0.02haを整備しています。令和6年度からの出荷に向けて昨年の6月、7月に着花促進を行い、今年の秋に球果を採取し、現在、乾燥や精選等の作業を行っております。



特定母樹スギの球果採取

さらに、今年から27品種で構成する屋外のミニチュア採穂園の造成を行っており、十分な量の種子を生産する体制整備を進めております。なお、特定母樹では、着花促進により自然受粉に十分な花粉の生産が見込まれることから、屋外のミニチュア採穂園で種子生産を行っています。

4 今後のスギ花粉症対策

特定母樹の雄花着花量が一般

の精英樹スギの50%であっても成長量が1.5倍以上であるため、若齢級(未成熟木)ではあまり雄花ができないことと短伐期施業とを組み合わせることで、花粉の発生量を少なく抑えることができます。

しかし、適期の伐採が必須となりますので、特定母樹スギは林業経営が持続される地域での植栽が望ましいと考えます。



着花促進処理後の特定母樹スギ雄花の着花状況(12月)

さらに、都市近郊では花粉発散量(雄花着花量)が極めて少ない少花粉スギを植栽するなど、これからは森林づくりの目的に合わせ、植栽するスギの種類や品種を適切に選択していくことがより大切になります。

このほか、無花粉スギの開発や特定母樹カラマツ採穂園の造成を進めており、令和18年度から無花粉スギ挿し木発根済幼苗の出荷、令和17年度から特定母樹カラマツ種子の出荷を始める計画です。

当センターのスギ花粉症対策の取組を取りまとめたPDF版の冊子をホームページからダウンロードできますので、詳しくお知りになりたい方は、是非御覧下さい。また、少花粉スギの生産や無花粉スギの開発状況等については、当センター名のYouTubeで公開していますので、御視聴下さい。

(林業技術総合センター)



YouTube



ホームページ

スギ花粉症対策の取組

季節の変わり目に悩みの種になることが多い花粉症。その原因の宮城県林業技術総合センターでは、20年前から「少花粉スギ」を

新たなスギ花粉症対策が令和5年5月30日の政府関係閣僚会議で閣議決定しました。その主な対策の内容は次のとおりです。

- ①花粉の少ないスギの苗木やスギ以外の樹種への植え替えを進め、10年後にはスギ苗木のおよそ9割以上を花粉の少ないものにする。また、スギの人工林を2割程度減少させる。
- ②30年後には花粉の発生量の半減を目指す。

さらに、同年10月11日には、スギ人工林の伐採や花粉の少ない苗木への植え替えを重点的に実施する区域を同年度中に設定することなどを盛り込んだ対策のパッケージが取りまとめられ、令和6年2月16日には林野庁からスギ人工林伐採重点区域が公表されています。この中で、宮城県は県内5市14町村から合計約1万haを設定しています。

一方当センターでは、現在「宮城県スギ花粉発生源対策推進プラン」が掲げる県内で需要が見込まれる年間80万本の山行きスギコンテナ苗を全て花粉症対策に資する苗へ変換するため、令和12年度までに少花粉スギ挿し木発根済の幼苗(山行コンテナ苗の前段階となる苗)14万本、少花粉スギの種子2.7kg、特定母樹スギの種子8.3kg以上の生産を目指して体制を整備しているところです(表1参照)。

少花粉スギとは花粉飛散量(雄花着花量)が一般のスギの1%以下の品種です。また、特定母樹とは在来の系統よりも成長量が1.5倍以上の通直性や材質の剛性に優れている樹種で地球温暖化防止やこれからの林業に大きく役

少花粉スギ挿し木発根済幼苗	14	万本
少花粉スギ種子	2.7	Kg
特定母樹スギ種子	8.3	Kg

※山行きコンテナ苗への育成期間は2年
※スギ種子1kgから60,000本の苗木生産

少花粉スギ挿し木	14	万本
少花粉スギ実生苗	16	万本
特定母樹スギ実生苗	50	万本

※植栽面積400ha×植栽密度2,000本/ha

■挿し木(採穂から育てた木)と実生木(種子から育てた木)

挿し木は母樹の形質を100%受け継ぎます。従って、少花粉スギの場合は確実に雄花を全く着けないか、わずか(通常の1%以下)しか着けない木になりますが、遺伝的多様性が低くなります。

実生木は遺伝的多様性や環境変化への適応性は高くなりますが、母樹と花粉親の両方を少花粉スギにする必要があるため、受粉環境の整備や受粉作業に費用と手間がかかります。

表1
少花粉スギ挿し木発根済幼苗及び種子の生産体制の整備

立つことが期待されており、現在、スギ、ヒノキ、カラマツで指定されています。なお、スギの場合はさらに、花粉飛散量(雄花着花量)が一般のスギの50%以下であることが大きな特徴となっています。



特定母樹スギのイメージ

1 少花粉スギ挿し木発根済幼苗の生産

県内産では、5品種が少花粉スギとして登録されています。このうち遠田2号以外の4品種は精英樹ですが、遠田2号は特定母樹です。



少花粉スギ挿し木発根済幼苗

この5品種からなる約7千本を母樹とする3.5haの採穂園と採取した挿し穂の発根を促進するミストハウスを整備しています。これにより毎年、母樹1本から約25本の穂を採取し、約17万5千本の挿し穂をミストハウ

スに挿し付け、約14万本の発根済幼苗を出荷していく計画です。令和5年度は13万3500本を出荷しました。なお、品種毎の出荷本数は下表のとおりで、遠田2号が5割以上となっています。

品種名	種類	出荷本数
遠田2号	特定母樹	71,800本
玉造8号	精英樹	24,000本
刈田1号	精英樹	23,900本
宮城3号	精英樹	7,200本
加美1号	精英樹	6,600本
合計		133,500本

品種ごとの出荷本数

スギ挿し木苗の生産は九州地方では盛んに行われていますが、寒冷地では生産が難しいことや種子より生産効率が悪いことなどにより、本州、特に東日本ではあまり取り組まれていません。しかし、挿し木は母樹(親木)のクローンであり、100%形質を引き継ぐことから、当センターでは昭和30年代後半から採穂園の造成を始め、昭和40年代に挿し木苗生産の基本的な技術を確認しています。初めはほとんどが精英樹で、花粉症対策品種(当時は花粉飛散量(雄花着花量)が一般の20%以下のもの)はごく一部でしたが、精英樹を伐採し花粉症対策品種のクローン苗木への植え替え作業を繰り返し、平成16年度から少花粉スギ挿し木発根済幼苗の出荷を開

木材市況の動向

表1 各共販所別木材市況(令和6年10月)

樹種	材長 m	径級 cm	価格(中値 単位:円/m ³)			
			仙南	仙北	大衡	津山
ス	3.00	14~16	—	—	—	—
		16~30	—	—	—	—
		20~32	—	—	—	13,000
ギ	4.00	10~13直曲	—	11,000	9,000	11,500
		14~18直曲	—	11,000	9,000	11,000
		20~22	12,200	11,500	12,000	12,900
		24~34	—	—	12,000	13,000
		36~	11,500	—	12,000	12,000

資料:宮城県森林組合連合会

概況
素材動向
 ・素材平均価格は前年と比較し、やや高い水準で推移している。

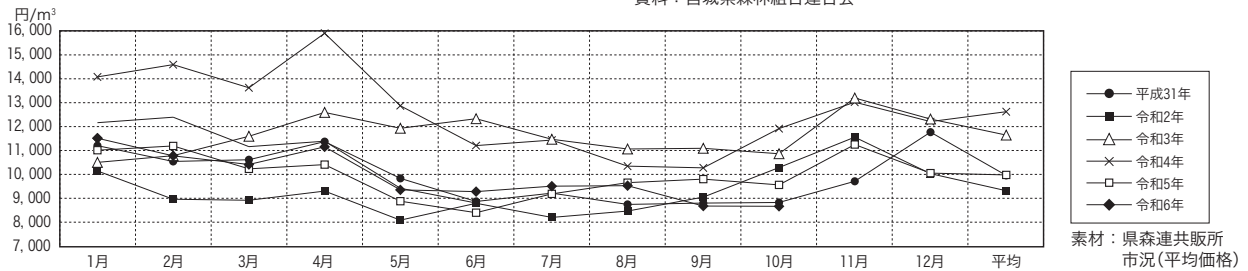


図1 素材価格の動き

特産市況の動向

表2 生しいたけ価格の市況(令和6年10月)

単位:円/kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成31年	1,064	993	895	932	887	888	901	989	949	908	953	998
令和2年	999	965	977	1,006	973	958	926	944	1,057	1,044	989	1,001
令和3年	1,046	954	916	879	892	862	843	921	939	921	948	1,035
令和4年	1,010	991	982	948	983	1,012	1,035	976	1,002	1,015	1,013	1,038
令和5年	1,031	968	967	966	996	1,038	1,019	996	1,011	1,016	1,006	1,068
令和6年	1,072	1,044	1,069	1,042	1,084	975	896	1,027	1,110	1,115		

資料:仙台中央卸売市場

概況
 ・平成24年に原木しいたけ(露地)が出荷制限指示を受けたこと等に伴い、価格は大きく下落したが、平成26年次以降は900円~1,000円台と、震災前の平均価格を上回っている。
 ・令和6年の生しいたけ年平均の単価(円/kg)は前年よりやや高い水準で推移しており、9月から10月にかけて前年度同月の価格を上回り1,115円となった。

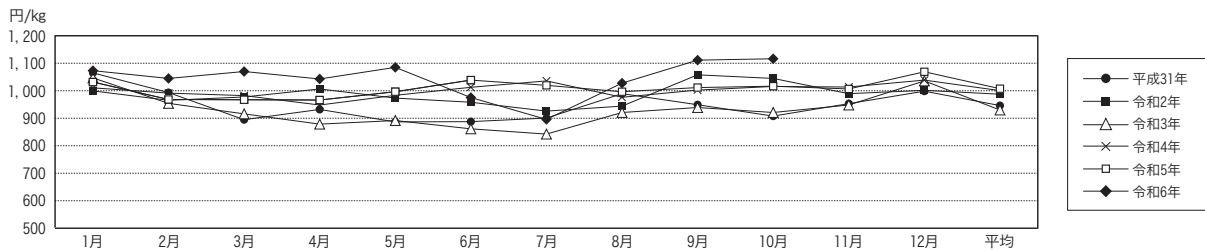


図2 生しいたけ価格の動向

表3 宮城県の新設住宅着工戸数(令和6年10月)

項目	総数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
令和6年10月(戸)	1,301	1,112	189	85.5
令和5年10月(戸)	1,049	824	255	78.6
前年同月比(%)	124.0	135.0	74.1	—
令和5年10月~令和6年10月(戸)	18,049	13,131	4,918	72.8
令和4年10月~令和5年10月(戸)	16,596	11,918	4,678	71.8
前年同期比(%)	108.8	110.2	105.1	—

資料:住宅着工統計

概況
新設住宅着工戸数
 ・10月の新設住宅計は前年同月比で24.0%増加し、前年同期比では8.8%増となった。
 ・構造別では木造が前年同月比で35.0%増加し、前年同期比で10.2%増となり、木造率は前年同月比で6.9ポイント増の85.5%となった。



今回御紹介するのは、大河原町で家具や木作品を手掛けている木工造形家阿部浩秋さんです。

阿部さんは、家具製作の傍ら、「にゃんこけし」の製作や、うらにわあとリエ内で様々なワークショップの開催をしています。



うらにわあとリエ/家具工房飛鷲
阿部浩秋さん

一本日はよろしくお祈いします。
まず、現在の活動を教えていただけますか？

阿部浩秋さん(以下阿部さん)：よろしくお祈いします。

現在は家具製作の傍ら、うらにわあとリエの管理やにゃんこけしの製作をしています。あとリエでは様々な作家さんの作品の販売や、ワークショップの開催を行っています。

一にゃんこけしはいつ頃から作っていたのでしょうか？

阿部さん：にゃんこけしは2019年頃から作り始めました。もともとは家具製作の時に出る端材をもったいなく思い、何かに使えないかと考えたのがきっかけです。端材を小さなこけし形に削り、猫をモチーフに、木片を差し込んで耳を作って、小さなこけしのようなものを作ってみました。

結果、生まれたのが「にゃんこけし」です。木材の種類によって触り心地も異なります。そして、その1年後に、以前からお世話になっていた方から、空き家になる民家の管理をお願いされました。近くには、自分の工房があ

りましたから、せっかく空き家になるならと、知り合いの作家さんに手伝ってもらって、2020年に「うらにわあとリエ」が誕生したんです。

作品が出会いと繋がり

一にゃんこけしやうらにわあとリエでの活動を通して、何か変化はありましたか？

阿部さん：意外だったのは、にゃんこけしやうらにわあとリエが多く交流や出会いにつながったことです。にゃんこけしが好きな方土のコミュニティが、私自身も知らない遠くまで広がったり、作品がきっかけで海外での絵付け体験や販売につながっていきました。宮城県さんとも山の幸販売会の出店をきっかけに、子供たちに箸作りのワークショップを行っています。子供たちと接する機会に伝えたいのは、日本が豊かな国であるということ。山や木が身近にあり、それを使って生活を豊かにすることができる。日本でいう「工藝」の文化です。何げなく毎日に溶け込む木材が、どこから、どのよう来ているのか感じるきっか

けにしてほしいと思います。後は、うらにわあとリエにやってくる子供たちや親御さんの自然への関心の深さにも驚かされます。意外と、自然や森に興味があっても、どこに行けばいいかわからない人は多く、あとリエはそのような人たちとの出会いの起点にもなってくれました。

自然の学びを未来に伝える

一ありがとうございます。

最後に、今後の活動に展望などはありますか？

阿部さん：偶然開いたあとリエが誕生して4年を経て、その間に様々な出会いに恵まれました。人が集まる場所は、新しい出会いや仕事につながると気付きましたし、さらに今では子供たちの教育の場にまで発展しています。

これからの目標は、その出会いの場を続けていくこと、せっかく作った場所とつながりを絶やさないことです。あとリエに訪れ、楽しく過ごしながら学んだ記憶が、子供たちが大人になったときにまた未来へつながってくれば、素敵なことだと思っています。



↑ころんとしたフォルムが愛らしい
絵付け前のにゃんこけし



↑完成！体験では自分だけのオリジナル
にゃんこけしを作ることができる

国産材(生産販売)、木材チップ生産
製材業、伐出造林請負



宮城十條林産株式会社

代表取締役 亀山 武弘

本社 〒980-0871
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150
営業所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山
工場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山・鶯沢
関連会社 宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社
株式会社宮城環境保全研究所

地域との共生 めぐるめぐみ



坂元植林株式会社
株式会社サカモト



坂元植林の家



ウッドデザイン賞 環境大臣賞

989-1601 宮城県柴田郡柴田町船岡中央 1-9-12
Tel:0224-58-1100 Fax:0224-58-2252 web-sakamoto.co.jp

宮城県木材チップ協同組合

代表理事 亀山 武弘
専務理事 小澤 幸三
理事 亀山 征弘
理事 梶原 領太
監事 阿部 貢也
監事 石田 竜也

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

宮城県木材チップ工業会

会長 米澤 光秀
副会長 永井 政雄
副会長 菅原 正義
副会長 佐藤 裕康
ほか理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151

緑をはぐくみ水をつくる
奥地水源地域の森林整備

水源林造成事業

宮城県水源林造林協議会

〒980-0011
仙台市青葉区上杉2丁目4-46
宮城県森林組合会館内
TEL (022) 266-7121

一般財団法人 佐々君治山報恩会

代表理事 遊佐 勘左衛門

〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号
TEL (0229) 22-1281
FAX (0229) 22-1281
E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

- ☑ 製材機械
- ☑ プレカット機械 「木」に関する機械の販売及びメンテナンス
- ☑ 農林業機械



筒井鋼機株式会社



(022)224-1261

〒980-0013



(022)265-9231

仙台市青葉区花京院二丁目2番22号



弊社WEB

「公益信託 農林中金森林再生基金」(農中森力基金)^{もりちから}等を通じ、森林の公益性発揮を
目指した活動を積極的に支援していきます。

農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号 (JAビル宮城内) ☎022(711)7531(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

JForest 宮城県森林組合連合会

仙台市青葉区上杉2丁目4-46
TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

■優良みやぎ材の原木は

仙南地区木材センター 0224-65-2166

仙北地区木材センター 0229-72-1877

大衡総合センター 022-345-2205

津山木材センター 0225-68-3038

■樹木の枝や根の有効利用は ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

花粉症対策スギ挿木コンテナ苗木, 海岸防災林用抵抗性クロマツ苗木をはじめ,
林業用及び森林復旧用各種苗木のご用命・ご相談承ります。

宮城県農林種苗農業協同組合

〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目4番46号
TEL (022) 222-3661 FAX (022) 222-3688

林業の を伝える月刊誌



GR 現代林業

A5判 80頁
年間購読料 5,400円(送料込み)



林業新知識

B5判 24頁
年間購読料 3,000円(送料込み)



山林

A5判 66頁
年間購読料 3,500円(送料込み)

図書の申込、問い合わせは

宮城県林業振興協会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
宮城県仙台合同庁舎10階

TEL 022-301-7501
FAX 022-301-7502

スゴいぞ! みやぎの木のチカラ



木×SDGs

Wise use of woods from みやぎ!

県土の約6割を占める森林は、水源のかん養や山地災害の防止など多様な機能を担っており、その発揮が様々なSDGsの目標達成に貢献しています。また、製造時のCO2排出量が少なく、内部に炭素を蓄える木材を上手に利用すること（ワイズユーズ）は、温暖化防止など様々なSDGsに貢献し、そこから生み出される恵みを森林の再生に還元させることで持続可能な循環を作り出すことができます。

みやぎにはJAS製材品など優れた品質の木材や高度な加工技術があります。どうぞ、家づくりや街づくり等において「みやぎの木のチカラ」を実感してください。

私たちがお手伝いいたします。

宮城県木材協同組合の取組例

JAS製品の
利用拡大




宮城県産材
利用拡大



宮城県木材協同組合 理事長 米澤 光秀
tel:022(233)2883 <https://miyagi-wood.jp>

令和6年度JAS構造材実証支援事業

森林は大切な資源です
森林整備を通して
美しい森林を未来に伝えます

 一般社団法人 宮城県林業公社
(森林整備法人)

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172
<http://www.miyagi-rinkou.sakura.ne.jp>



緑の募金

にご協力ください!

令和7年目標額

45,000,000円

令和7年緑の募金運動スローガン



みやぎ 2025
第48回 全国育樹祭
次世代へ みどりのかけ橋 森づくり

「緑の募金で進めよう SDGs」～森林を守る 森林を活かす～

公益社団法人 宮城県緑化推進委員会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎10階
TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502